

一名武公行事
新能布乃多根

完

289.1

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

タイトル番号：0064

書名：新能布の多根
-武公行事

1冊

先君武公御在國中一年御行事

一文化六年己巳三月二十八日御着城即日 御朝参

一同年四月二日 御宮御社参

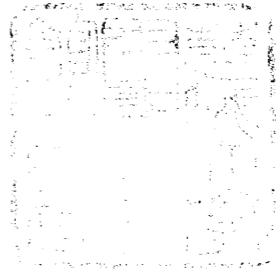
一同五日瑞龍山若御寺、御参詣六日歸御

一同十日磯崎邊、出御

一同十六日 御宮御社参

一同二十二日仙臺政子代殿使者平賀淡路参向

一同年五月四日 上使松平長門守殿参向



50990

一同十一日御本城、於御調練、上覽
 一同十七日吉田明神、御参詣
 一同十八日於御本城再御備御調練、上覽
 一同十九日八幡宮長靜神社、御参詣
 一同二十一日吉田藥王院并寶鏡院、御
 一同二十五日御著城、付始而御家中總御禮被為受
 一同二十七日御家總領次男等始而御目見被仰付
 一同六月二日淡御殿、被為入同六日歸御
 一同六日彰考館、出御

一同十六日嘉祥御禮式
 一同七月二十一日再淡御殿、被為入同二十五日歸御
 一同八月二日於御本城馬上御備御調練、上覽
 一同十月六日北濱筋、御巡村同二十二日歸御
 一同九月十八日天子筋、御巡村同二十六日歸御
 一同十月十二日玄猪御規式
 一同十一月九日南筋、御巡村同十一日歸御
 一同二十一日淡御殿、被為成同二十九日歸御
 一文化七年庚午元日二日三日御規式

一 同十七日 御官御社参
 一 二月二十一日 御鷹野
 一 同二十五日 全隈村御鹿狩
 一 三月三日 和村御鹿狩
 一 同九日 瑞竜山御参拜
 一 同十三日 御鷹野御参 二 而鷓御勝負有之
 一 同十八日 丹下原御鹿狩
 一 四月四日 御發駕

新能布乃多根

一 文化六年己巳三月二十八日 御端國 二 付御家先
 中始諸士末々一町月筋ヨリ枡町辺ニ于御出
 迎奉リ己ノ刻過御馬上ニ于御機嫌ヨリ御着城被
 遊候事
 一 御着日御間ノウロク御白書院ヨリ出御ニ于
 御廟参被遊ス夕ニ諸役所御覽可被遊ト被仰出
 于御月附御先立ニ于諸役所御覽被遊候御賄方下

働キノ者大勢働キ居タル所一狭キ口ヨリツト御
獨身ニテ御立入御覽被遊テ御モトリナカラ御戯
ニ御意有シハ未タ我ヲ見シラサル故働キテ有タ
ルトノ御意ニテリレヨリ御日記方ノ邊一赴カセ
ラレ御顧被遊テ弥三左衛門時年寄此此辺一ハ度
度来ルナラント御意有キ年寄部屋一被為入候節
小面々入口ノ外一出平伏シテ御迎申シタリ年寄
辰一御戯ニ御亭主ノ留主一御見舞申スナトノ御
氣色ニテ御意有ケル御月附部屋一被為入候節ハ

御入口ニテ御通事ノ被シタル御刀ヲ御月附受取
奉リリレヨリ公ハ上ノ間ノ湯桶ノ外ニ立タセ
テ御覽遊ハサレテ婦御有シ也先君良公ノ御意有シ
ト羨リツタ一侍リシニ月附
御方ニシキ并ノ内ハ我等モ立入ラナル所也ト御意アリシトソレヲ
御守リ被遊シニテイトアリカタリ思ヒ奉リシトナシ
一御暑城ノ即日御郡奉行共一同召サセラレ仰有
ケルハ民ハ國ノ本也リレ故先ツ早速ニ逢タル也
サテ又在國中政事ノ餘暇ニハ鷹狩等ノ延氣ニ時
時延在一山ニト存ル也サレト夫役耕作等ノ妨ニ
ナリ候テハ樂モ却而樂シカラスモシ夫役等ニ障

リ是有シト存ル片ハ其旨速ニ申シテ此處也
シモ遠慮ナク申シテ一シトノ仰有キ農ヲ重シ
シ五ノ御心イト深シ奉記ニ見タリ
一御在國中御本城ニ於テ御調練ノ御見分アラセラ
レキ是ヨリ先夫化五辰年ヨリ表勤御家老大田原傳内為政シテ御調練事
調練ノ司大寄合頭伊藤三郎當君ノ御代為政老衰シテ致仕シケレハ其跡御
兵衛友明ニ被仰付ナリ御軍用總司朝比奈弥太郎恭宜
御家老御側近ク侍坐ス忠明御軍用掛タルノ故ヲ以
御用達ニ長ル忠明此時書院番ニテ次番雇勤シ故御側近ク侍坐ス
弥太郎後ニ長ル忠明此時書院番ニテ次番雇勤シ故御側近ク侍坐ス
ニテ其御答ニ指支レシトモアラントテ弥太郎指圖ヲ以
御側近ク弥太郎後ニ侍坐シ奉リシナリ 其外近臣ノ筆雲ノ

如ク御後口ノアタリ所也キニテ羣參伺公也リヤ
于御調練一二三其外ノ御備作法進退殘ル所ナリ
相濟殊ノ外ノ御氣色ニテ弥太郎并忠明ニ每事ノ
御尋御物語コレアリ歸御被遊ケル御物語ノ一事
左ニ是ヲ記ス
仰有ケルハ此一備調練ノ人教如何程有之ヤト弥
太郎ノ御尋也弥太郎忠明ニ向ヒ委細言上仕ルハ
キノ旨差圖有之ニ付忠明御答申上奉ルハ一ト御
備總御人教ハ過分ナル義ニ候一ト御城中御分

内ニ狭ク且ハ又者雜人等撰ニ立入可申御場所ニ
無之候ヲ以足輕長柄武者等ヲ御備員教ノ半教ニ
御減シニテ猶又雜人又者等ハ一切ニ有之候故形
ノ如ク小人教ニ有之候由御人教ノ總計答申上
又ト茲ニ其教ヲモラシリ申上奉リ
ケル片 仰有ケルハ是ホトノ人教ニテモ我思フ
所ハ一ツカトノ用ヲサント思フ也總シテ軍ノ
勝敗ハ人教ノ衆寡ニハヨラサレドナルニ補正
成子劔破篁城ノ人教ハ如何程ト御尋故 忠明 答
奉ルハ正成子劔破篁城ノ人教ハ予足ラト相見

一申候サレト六波羅勢十萬餘ノ人教ニ對シ一度
モ後レテ取申サス終ニ開運仕候ヤウ記録ニ相見
一申候ヨシ申上ケルハ其時 仰有ケルハサモア
リ又ハ之鳥合ノ驅集勢何十萬アルトテモ何カ也
シ予カ思フ所ハ卒日恩ヲ施シ扶持シテ所ノ予
是ノ如クナル家入兵ヲ引奉シテ上下一致ナラレ
ニハ水火ノ内ト云斥避ルヨリテ大軍ニ對シテモ
最易ク打破ルヘシ思フ也既ニ調練ニ於テハ傳内
并其方共ノ精力ニテ如件相整ヒ猶又此頃軍制改

章モ事整ヒヌレハ只此上ハ猶以上下ノ心ヲ一和
セシムヤウニ思ラ施シ教ノ導シテコレヲ力勤ト
スレ所也トノ仰アリキ
其夜日アラシテ大田原為政ニ御幸シカラ
御力多ニリ服帳雨宮廣母及忠明ニ御諱下シ
賜ヒテ御調練ノ切當ヲ
褒賞有ケルリアリカタケレ

一此君元來治國ノ政ニ專ラ武事ヲ重シシ玉ヲ御志
深リマシクテ御生涯ノ御事業武事ノ御盛舉ハ多
リリキ所謂御軍用御政章御備御調練鹿狩ノ御兵
制等ノ了尤其御大業ニマシテリレラノ事ニ附
屬シタリシトニテ舊キヲ起シ柱レルヲ矯メ玉レ

御英斷ノ御政リ多カリキ猶此上教々ノ御善政モ
アラシキト侍奉リシ内大喪ノ御事侍リケレハ
御國中ノ士民只昊天ニ號泣シテ追慕シ奉レ許ニ
ナレアリケルカレト其御盛舉ノ餘業當君ノ御
代ニ至テモ姑ラクモ廢弛シ玉フテナリ隊伍ノ出
作行列ノ進止等ノ了ハハハカウ也兵制ノ建議
悉ニ其事整ヒケレハ他ノ國々マテモ御兵制ノ盛
ンナルトテ感歎シ奉ルトハナリ又
一御鹿狩有之候後御夜話ノ節御側ニ侍坐口ニ者一

御物語アリケル此程馬口勞町地際武者階ニ於
テ其辺ノ子供共大勢相集リ鹿狩ノ真似シテ縄綱
ヲ張りヲキ爰カシコヨリ火ヲ追コシ彼綱一羅リ
シ火ヲ竹槍モテ突殺シタルトキケリサテモク勇
マシキトニ思ハル也我等幼ナリシ頃マテハ我
等ヲ始相子ニ出ヌル子供共モ一同ニ日々徒ラ事
ノ工夫メ或ハ人ヲ驚カシ或ハ人ニ戲謔シ様々
ノワルサノミ遊トシテ傳授ノ者老女共ナトニ叱
ラレシト日々ナリキ今ノ子供ノ遊戯ヲ見ルニ左

様ノ丁ハ其之幼ナルヨリ成人ノ如クノ行跡ニテ
生ヒ立ヌルリカシ廿ノ沁章氣運盛衰ノ然ラシム
此所ニシテ止ルトテ詩サレトナカラ又其扱ヒ様
ニヨリ盛衰表ハナル一キ者リカシ情人ノ一生ヲ
思量スルニ幼ナルヨリ其行事ヲトナシク此児成
長ノ後ハ如何ナル器材ハナル一キヤト人ニモ許
サレタルカ頻ニ生長ニ従テ只一通ノ人物トナ
リ下リ何ノ用ニ立タサル常人ニテ一生ヲ送ル
モノ多キカ如ク見ユル也兎角後ニ大用ヲナサシ

程ノ才器アル者ハ天ヨリ稟ル所ノ氣血身體ニ充
塞スルノ餘リ以テ年ノ頃ハ放蕩無頼度ニハツレタ
ル行事多キヤウニ思ハル也ナレハ幼年ヨリ其
行事成人ノ如クヲトサシキハ称スヘキノ様ナ
レトモ天稟ノ氣血ニ不足アル處ヨリ出ルモノリ
ト思ハハ衰世ノ人性ニテタノモシケヤク思フ也
幻キ牛ハ幻キ程ノ勢アツテ徳ニノニ成長セシコ
ソ盛世ノ人性ト思ハル也今如件ノ沙汰ヲ聞テ
モ世運ノ再ニ振フヘキ効ツト思ハイト喜シク

思ヒトノ仰アリキ人々ノ勇ヲ取調玉フ御志アリ
カタリソラホヘシ 忠明モ其末坐ニ待シテ伺ヒ奉リシ也
一武夜侍臣ニ仰アリケルハ凡家中ノ者文武ヲ勵ミ
候事ハ偏廢スヘカラサルハ勿論ノ事ニサレト予
カ思フ所ハ其中取り分ケ重ニスル所有ヘシ大身
ノ者ヨリ中人以上ノ者ハ一國ノ政事ニモ預リ下
下ヲ鄉導スヘキ身ナレハ其中ニ別テ文ヲ專ニ學
シヨリ其職ハ相當トヤスヘキ又中人以下ノ者ハ
一身ノ働ヲ其身ニ本意トスルヲナレハ武ヲ專ニ